

第3回学校運営協議会による外部評価（意見）

H31. 3.5

◎ 学校評価の結果について

教頭：前期の結果と比較し、日常生活で気になることはないが、学校生活において満足度や達成感が減少した。基礎学力を週末課題や小テストなどで定着をはかっているが、先生方からも「課題をしているが、やらせきれていない部分もある」という意見が出ている。生徒たちは先生方の授業などに一定の評価はあるが、結果として表れていないのが現状である。また家庭学習の習慣がなかなかつかないことも課題としてあげられる。昨今、スマホの普及率が高く、常にスマホを使う環境も少し影響しているのではないかと考えている。

「ご家庭ではスマホを所有している場合ルールなどは設けていますか。」

理事：実は高校では、授業でもスマホを使うように今年度は試験的に実施した。動画配信しているものもあり、来年度は校内WiFiも整う予定である。全国的に見てもスマホを使って授業を行う学校も増えており、課題もスマホやパソコンを使って提出するものや見ながらするものがある。

校長：「スマホを持っていない生徒にはどうされていますか。」

理事：本校では、持っていない生徒にはレンタルタブレットがあるので貸し出している。ただ、高校の合格祝いにスマホを買ってもらおうというご家庭が多く、100%に近い所有率だと思う。こういった学校アンケートなどもスマホで答えてもらうようにしている。もちろんスマホの使い方の指導は外部から講師を招いて年2回実施している。

教頭：「自制心はどうすればつくか悩みどころですが、ルール等を設けていたというご家庭ありますか。」

理事：特にルールは設けてなかった。あっても守らない場合もあるので。

理事：高校生になってからスマホを持たせていたけど、人とのやりとりが少しでも遅れるといやな思いをすることもあったようで、「もう取り上げるから！」と言って取り上げたときは、「スマホから解放されてうれしい」と言っていた。取り上げられることで、返信しなくていいからと。そういう気持ちになってくれるのはありがたかった。

理事：いい風に転んだからよかったが、スマホに依存しすぎて取り上げると興奮する子もいるみたいである。

校長：今の時代は部活などの連絡もスマホが多く、ないと困る場合もあるのでは？

理事：中学時代に不便は感じなかったけど、高校でもっていない場合は大変かもしれない。子どもの友達がスマホを持っていなかったうちの子（スマホをもっていないので）と連絡取るときに苦労していたそうだ。

校長：女子はコミュニケーションツールとして使っている場合が多く、男子はゲームの場合が多い。以前、親が取り上げてしまったら、取り上げた親への反抗で学校を休んだという例もある。子どもは知らないうちにがんじがらめになっているのかもしれない。先日、テレビで「スマホ卒業！」というタイトルで、その生徒は高校を卒業すると同時にスマホからガラケーに変えて気分がすっきりしたという内容を放送していた。

理事：大阪で「学校で携帯所持がOK」というニュースに子どもが大喜びしていたが、京都はそうはならないよってという話をした。学校でも道徳で扱ってくれたみたいで、先生方も意識してお話してくれたんだなぁと思っている。

理事：地域性もあると思う。大阪は特に安全性を意識して持たせる方向のようだが、このあたりはその必要はないかもしれない。

校長：国語の定期テストでケイタイに関する問題を出題したようだが、解答を見ると、常識的な感覚をもっている生徒が多いようである。

教頭：SNSで会話をずっと続け、寝不足になって生活のリズムが崩れてくるケースもあるようだ。学校でも、スマホにとらわれない生活や正しい使い方を伝えていきたいと思っている。

理事：高校でも、厳しいところは禁止の学校もある。持っていくのは大丈夫だけど、正門で電源をOFFにするよう指導されていて、もし鳴ってしまったら取り上げられて、保護者が学校まで引き取りにいくことになっている。

校長：大人でも会議中などに鳴ることはあるから、そこまで厳しくせずとも「悪いな」という気持ちがあればいいと思う。本校でも、保護者からの依頼で学校に携帯を持ってきている生徒がいるが、その場合は朝、職員室で担任に預けている。

教頭：「では、携帯については今後も見守っていきたいと思います。」

◎ いじめアンケートについて

校長：いじめに関するアンケートの結果をみると、いじめにつながるようなケースは1件あったが、このアンケートのあとに教育相談を設けているので、そのケースを含め、担任と話し解決している。

理事：この学校の学区には児童養護施設があるが、その生徒たちをからかうようなことはあるのか？

校長：そのことに対して、からかったり、嫌がらせをしたりするようなケースは校内では聞いていない。昔、地域では施設に対しての反対意見もあったりしたようだが、今はないようだ。このいじめアンケートに載っているものも、施設の子だから、加害者、被害者というものはない。

理事：10年以上前に、小学校の時にいじめ問題があつて、解決して中学校に入学してきて、また同じような問題が起こるというケースがあつた。中学1年生の時に発生して、先生が間に入ってその問題は解決したことがあつた。

校長：人は他と違っていることや変わっていることに目がいく。そのことが理由でいじめにつながるケースもあり、小学校のときに起こった問題を小学校の先生が上手に入って解決されたと思うが、本来は、違っていることもよくて、それを認め合うということが大切である。この「違っている」をどうとらえさせるかが大きな課題だと思う。もめ事があつた時こそ、深く考えられるひとつのチャンスだと思う。先生によって授業態度を変えるという行為も、教師側がしっかりと考えていく必要があると考えている。

理事：中学生は小学生と違って、わかってやっている場合がある。

校長：わかっているからこそ、指導はきちんとしやすい。小学生の場合は、そう思い込んでしまったら、事実と異なることが正しくなり、指導までが難しくなることがある。

理事：語彙の問題もあるので、小学校でも先生方がその子を解きほぐしてくれることで話してくれると思う。

◎ 来年度の学校運営協議会の組織について

来年度の学校運営協議会には、小中連携を意識した動きとして両小学校の校長と各小学校運営協議会理事の代表者の4名が中学校の学校運営協議会に参加することになります。